

臨床研究の情報公開

研究課題名	先天性胆道拡張症における膵・胆管合流異常の合流形式と胆嚢・胆管病変の関連性
研究機関	弘前大学医学部附属病院 小児外科 弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座
研究内容	先天性胆道拡張症は、おもに小児期に膵・胆管合流異常を背景として発症する疾患です。胆道の拡張形態や膵・胆管合流異常の形式には様々な形態がありますが、癌が生じる可能性や、胆管炎を起こす可能性があることから、原則として診断後早期の拡張した胆管を切除して、腸管と吻合する手術が標準治療とされています。しかし、手術後時間が経ってから、癌を生じたり、結石が生じたりして、再手術が必要となる方も報告されています。われわれはこれまでに腹部超音波検査での胆嚢を調べると、小児期の膵・胆管合流異常の早期診断に役立つことを報告してきました。しかしながら、いまだ合流形式と胆嚢・胆管の手術標本における病理学的変化の関係、さらに予後や合併症との関係は明らかになっておりません。そこで、過去に当科で小児期に治療された先天性胆道拡張症の症例を検討し、胆嚢・胆管病変と合流形態、長期予後との関連を明らかにしたいと考えております。
実施期間	倫理委員会承認日から平成 30 年 12 月 31 日まで
対象者	弘前大学医学部附属病院小児外科で 1979 年 1 月から 2015 年 4 月まで先天性胆道拡張症の診断で治療を受けられた 41 人が対象です。
実施方法	患者さんへ介入を行わない既存情報を使用する研究です。既存情報は診療録を利用し、患者背景（年齢、性別など）、術式、合併症などの手術関連情報、術後長期の予後などの情報を使用します。また、手術時に採取された病理標本を用いて比較検討を行います。患者個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。
参加撤回の自由	患者さんが解析対象となることを望まない場合、研究対象から除外しますので担当医師や下記に御連絡ください。その場合、当科での診療において何ら不利益を受けません。
問い合わせ先	研究計画書や研究の方法に関する資料などの閲覧希望、研究についての疑問などの問い合わせは下記にご連絡ください。 研究実施責任者：鍵谷 卓司（かぎや たくじ） あて先：〒036-8562 弘前市在府町 5 弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座 電 話：0172-39-5079（講座直通） F A X：0172-39-5080（講座直通） メール：t-kagiya@hirosaki-u.ac.jp